

出ると考えている。

②厚生労働省から示されたガイドラインに基づき、個人情報保護に関する基本方針の策定や研修の実施に取り組んでいる。外来での呼び出しや病棟の名札の掲示などについても、安全管理と個人情報保護の観点から検討していく。

環境・清掃行政（水曜会）

問

①地球温暖化防止に向けて京都議定書が発効となったが、環境に配慮した公用車の導入実態と今後の計画は。

②ごみの減量化・資源化に向けた具体的施策は。



公用車への低公害車の導入

低排出ガス認定車に張られているシール



答

①公用車550台のうち低公害車は63台で、導入率は約11%である。14年度以降購入の軽自動車・普通自動車はすべて低排出ガス認定車で、作業車についても低粒子状物質（PM）排出車の導入に努め、より一層、環境負荷の低減に努めていく。

②16年4月からごみ減量大作戦に取り組み12月末現在、対前年度比4.4%（約5500トン）の減量となり、一定の成果があった。なお、家庭ごみの有料化は引き続き検討していく。

また、事業系ごみについては、紙ごみの搬入制限や多量排出事業者への減量指導などを実施した結果、大幅な減量が見込める状況であり、今後も、減量・分別の啓発や指導に努めていく。

◆関連質問

・IT化による用紙削減について（緑風会）

・ごみの減量化について（市民連合）

・ごみの有料化について（日本共産党）

介護保険

（公明党）

問

介護保険制度改革に向けて、

大きな視点は予防重視型システムへの転換である。軽度の認定者が重度に向かうか、より軽度化するかは、制度運用に大きく影響すると言われている。介護予防の充実が重要であることから、パワーリハビリについてどのように取り組むか。

答

軽度要介護状態の原因の約半数は、骨折、転倒、関節疾患などによる生活機能の低下である。

国では、介護予防のプログラムとして筋力向上などのモデル事業を実施し、新予防給付のあり方について検討している。本市でも国の動向を見極める中で、2005年度策定の「高齢者保健福祉計画2006」に位置づけていく。

◆関連質問

・制度運営の基本方針や保険料の見直し（市民連合）

・介護保険の改悪について（日本共産党）

入江大橋の渋滞緩和対策

（新政クラブ）

問

①渋滞緩和策として入江大橋北詰交差点の拡幅工事が計画されているが、そのスケジュールは、

②渋滞により年間300億円の機会損失があると推定されているが、入り江の埋め立てによる渋滞緩和は考えられないか。



曙町方面から入江大橋北詰交差点に向かう車の渋滞

答

①北詰交差点の改良事業は、県事業として現在地元説明を終え、2004年度から用地調査・取得を実施している。用地取得が済み次第、工事に着手する予定と聞いている。

②入り江の埋め立ては、1994年に港湾計画の見直しが行われ、内港地区は、入り江を活用した水面を残し、魅力あるウォーターフロント空間を創出し、海洋性レクリエーションの基地と、平穏水域を生かしたプレジャーボートの係留施設整備などが位置付けられ、計画的に整備が進められており、埋め立ては困難である。